

新聞雜誌

明治壬申五月

第四十三號



定價二匁

特	別
18	
787	
43	



緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未タ見聞セサルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ
 樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗シテ疑怖ムク多ク竟ニ我ヲ
 是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カハ辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ
 大政ノサマヲモ知ラデ却テ疑非ル者モアルベシカクテハ逢カクキ世ニ生レシカヒ
 ナシ今 官許ヲ受テ新聞私局ヲ開キ 大政ヲ始ノ諸府諸縣ノ變革
 又ハ里巷ノ瑣事外國ノ異聞ニテ見聞ニ随ヒ刊行スルハ我 日本國中
 ノ人々ト新知ヲ開ク樂ヲ同シ頑ル心僻ノル事ヲ棄ントテナリ願ハ此冊子
 ヲ讀ムフ人々ヲ聞テニヲ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ニ驚可ク
 喜可キ事多ク唯一隅耳ヲ見ルハ田舎人タルヲ免ヒス夏虫氷ヲ疑ノ笑有リト知
 玉ニサテヲ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カジト云ヘケレ

新聞雜誌第四十三號 明治五年壬申



○五月下旬 主上龍驤艦ニ乘御東京御發碇伊勢神
 宮共ニ神戸港、赤馬關、長崎、兼兒嶋、邊御巡覽御歸程四國
 大坂邊ヲ巡ラセラル、由御軍艦進、丁卯、裝鉄、孟春、攝
 津、雲揚、春日、鳳翔、筑波、ノ九艦不殘護送諸官省ヨリモ官
 負數名供奉セラル、ト云川丁卯艦ハ測量トシテ既ニ只
 ○文部省ノ博覽會既ニ五十日ノ定限ニ滿タリシニ猶者
 客ノ盡サルニヨリ當分毎月一六ノ日ヲ限リ縱觀差許
 サレタリ物品圖譜追テ同者中ヨリ出板ニ相成ルト云

新聞雜誌 第四十三號

○今般教導職ヲ置カレ等級左ノ通定メラレタリ尤モ
教部省管轄ナル由

大教正一級 權大教正二級 中教正三級

權中教正四級 少教正五級 權少教正六級

大講義七級 權大講義八級 中講義九級

權中講義十級 少講義十一級 權少講義十二級

訓導十三級 權訓導十四級 大教正以下俸給十級一級ハ官等二等ニ準ス以下倣之

○教部省ヨリ權少教正エ左ノ三條布達アリタリ

一敬神愛國ノ上旨ヲ休スベキ事 一天理人道ヲ明

ニスベキ事 一皇上ヲ奉戴シ朝旨ヲ遵守セシムベ

キ事

兼補權少教正

神宮祭主近衛忠房

全

出雲大宮司千家尊福

補權少教正

前大僧正 本願寺光尊 東本願寺光勝

○四月晦日ノ御布令ニ府下市中人家稠密ノ場所ニテ
牛豚^{ウシブタ}牧畜有之^カ處近來獸類ヨリノ傳染病等歲々有之^カ
之^カ炎暑ノ於柄嗅氣甚鋪夫レカ為メ自然人生健剛ノ毀^キ
害^{ガイ}ニモ相成リ決テ不可然ニ付自今家屋連續ノ場所ニ
テ牧畜致間鋪人家懸隔ノ場所ニテ飼立可申候尤是迄
在來候分断然引拂申付候テハ一時難設モ可有之間漸

漸取運_レ可成夫炎暑不至内引移候様可致云々聞ク西
洋ニテハ市街ノ清潔ナルヲ言語ニ絶セリ總シテ牧畜
場ハ野外廣漠ノ地ニアリ又惡水ナトヲ掘_レクニハ清水
道ヨリ四間バカリ下ヲ通シ糞_ヲ穢_ヲナドヲ掃除スルモ夜
中ノ仕事ニテ日晝ニ為スヲナシ街傍ノ便所_ハ奇廉ナ
ル圍_カ物_モアリテ人ヲシテ其体ヲ見セシメス夜ハ傍ラニ
瓦斯_カ燈_ヲ點セリ其他_ハ概_ナ子_ト如此ト云

○今般海軍省ニ於テ海程里法左ノ通り相定メラレタリ
一海里ハ一度六十分ノ一ヲ以テ一里ト定ム即チ陸里
十六町九分七厘五毛ナリ 一尋ハ_カ曲_サ尺_六尺_ヲ以テ

一尋ト定ム 但測量岳海底ノ淺深ハ于潮ノ時 一經

度ハ英國_ハカレンウイ_ヲ以テ暫_ク初度トス 但我國ニ

京海軍省標竿ヲ以テ東經一百三十 在テハ東

九度四十五分廿五秒零五ト定ム

○近頃_ハ米國_ハ留學生ヨリ一奇談ノ報知ヲ得タリ其仔細

ハ魯西亞_ニニストル_ルニテ當時_ハ華盛頓_ノ府ニ出張シタル

某ノ事ナリ此人ハ以前同國_ニニストル_ルニ附屬シ當國

ニ來テ史生ヲ務タリ其時佛國ノ賣_ハ淫_ヲ婦_ヲ圍_ヒ置キタ

ルニ付世評惡シク依テ_ハニストル_ル某忠告シテ曰人ト

シテ妻ノ名目ナク婦ヲ近ツクルハ不條理ト云ベシ早

ク歸シ去シムベシト夫ヨリ史生其婦人ヲ携ヘ當國ヲ

去リ他國ニ行キテ又同國辨務使ニ附属シタル由然ル
 處此度同國ノ「ミニストル」ヲ奉シ彼ノ婦當時正妻ヲ携
 へ當國ニ来リ居シガ過日當國外務卿自宅へ各國公使
 ヲ饗應ニ招ク子アリテ既ニ案内ヲナサントスル時外
 務卿ノ妻某説ヲ出シテ曰ク各國公使ハ夫婦共ニ招ク
 バシ候シ魯西亜「ミニストル」ノ妻ニ至ツテハ招クハ能
 ハズ妾並ヒ坐スルヲ恥ツト云々我國當時有名諸先生
 妻ト同坐ヲ恥依テ各國ニハ夫婦共ニ案内ヲナシ魯ノ
 「ミニストル」ハ一人而已案内セリ期日ニ至リ各國公
 使外務卿宅ニ集會セシ處各國公使ハ銘々妻ヲ携へタ

ルニ魯國ノ「ミニストル」ノ「ミ」獨リユヘテ持無沙汰ニテ
 大赤面スレ氏仕方ナク其日ハ不平ヲ忍ヒシカ其後慚
 恨ノ餘リ當時大統領列ラントヲ誹謗シ或人ニ書翰ヲ
 送リタルニ折悪シク其書翰途ニ落チ居シヲ當國人ニ
 拾ハレ遂ニ列ラントノ手ニ入り其始未露顯ニ及ヒハ
 ラント大ニ怒リテ曰ク君等ノ如キ愚物トハ以表面接
 スルヲ好マスト直サマ「ミニストル」引替ノ儀ヲ魯帝ニ
 言送リタリト云々

○木更津縣管内上總國望陀郡萬石ノ郷ニ竹内長三ト
 云フ里正アリ其性質篤厚ニシテ租稅ノ輸納堤梁ノ修

補ヨリ里人ノ争訟ヲ和解スル等ノ事ニ至ルマテ周備
懇切到サルナシ此頃一般ノ御趣意ニテ村高反別滅地
等総シテ古券地帳ヲ本トイタシ微細ニ取調べ忬モ古
帳ノ可^シ徴^シモノナク或ハ歳租^ハ齒^ハ齒^ハイタシ不正ノカド有之
分ハ其村長嚴ニ處置シ土地ノ廣狹ヲ檢査スヘキ旨觸
達アリタリ時ニ頑愚ノ小民共維新善政ノ故ヲ不知^ル
管^ス歳租ヲ増加スル事ナリト各疑惑ヲ生シ數日農務ヲ
廢セシ者アリ長三聞之説諭^キ懇到衆民ヲシテ安堵業ニ
就^シメタリ然ルニ此郷百年前ノ古券地帳ヲ失ヒ當時
官ニ納ル、税モ之ヲ精算スレハ積^ヤ圖籍ニ不合ノ事ア

リ長三大ニ憂懼シ之カ為メ寢食ヲ絶^クツ事數日ニ及ヘ
リ隣郷ニ青^イ崖^イ居士ト云人アリ博ク羣書ヲ覽^ミヨク人ノ
為メニ危難ヲ救^ヘリ長三同輩ト共ニ此人ニ云々ノ情
ヲ告ケ以テ教ヲ受ントス偶^ニ居士遠方ニ出遊人ルニ遇^フ
ヘリ長三涕泣シテ曰ク余ナルカナ此人ノ在サルハ我
ノ不幸知ル可キナリ公余ノ重キ之ヲ奉ズンハアル可
ラス下民ノ情痴之ヲ欺クヘカラス我復^ス忝^ニ面目ナシ
ト更ニ一封ノ願書ヲ留メ其夜^ニ屠^ル腹^シテ死セリ實ニ三
月十五日ノ事ナリト云

○高知縣ノ生徒徳弘猛自裁ノ儀ヲ論スル書ニ曰恭^テ惟^ニ

ルニ戊辰以来紀綱一新政度既ニ立テ法制モ亦定ル内
外大小ノ事悉ク舉ラサルナシ是實ニ 皇家ノ盛徳ト
云ト雖凡抑亦有司翼賛ノ功少トセス然ニ我邦古来ノ
弊習ニ於テ猶未タ脱然革除セサル者有ニ似タリ自裁
ノ儀是其一ナリ愚竊ニ惜ム方今ノ世文明ノ化隆々日
ノ昇カ如ク誠ニ旧弊ヲ改メ新政ヲ施シ一ツモ遺策無
ルベキノ時ナリ然ルヲ獨リ自裁ノ儀ニ於テハ有司未
タ是ヲ議スルヲ聞カス豈昭代ノ大欠典ナラスヤ夫レ
人ノ性命タル天ヨリ授賦スル者ニシテ人ノ得テ私ス
ヘキニ非ス國家ノ為ノ是ヲ愛養保全シ一旦緩急アテ

ハ舉テ是ヲ國家ニ致ス是自ラ國民其國ヲ愛シ其國ニ
報スル所以ノ職分ナリ故ニ人苟モ己ノ性命ヲ以テ自
カラ恣ニ之ヲ戕賊スヘカラス夫人ノ世ニ在ルヤ百般
ノ艱難窮厄ヲ經テ其務ヲ行フ者ナレハ其際タ小過失
小失策無キ能ハス况ヤ少年血氣未タ定マラス或ハ洒
ヲ使ヒ或ハ婦女ニ耽溺シ一時ノ失策一時ノ過失ハ必
ス無キヲ保タス然ルヲ同志輩之ニ逼リ其失策過失ヲ
責メテ自裁セシメ或ハ自ラ其責ノ末ランヲ恐レ期ニ
先テ自裁スル者アリ其英決果斷ノ氣賞スヘキニ似タ
リトイヘ氏之ヲ要スルニ古来ノ弊俗ニ慣レ野蠻ノ風

習ヲ脱除スル能ハサル者ニシテ國民ノ國民タル真誠ノ道理ヲ知ラサルニ坐スルノニ且ツ夫レ怯懦臆病ト捕スルハ一時過失ノ謂ニ非ス軍卒ノ敵ヲ望テ畏レ彌令ニ背テ逃走シ醫官ノ傳染病ヲ恐テ逃避スル等是ヲコソ怯懦臆病ト捕スベケレ一時過失ノ如キ未タ是ヲ臆病未練ト云ヘカラス吁々自裁ノ習未タ何ノ時ニ始メ知ラズトイヘ氏今ヲ以テ是ヲ見レハ戰國野蠻ノ風習ヲ免レサル者ニシテ是ヲ宇内各國文明ノ政度ニ視ルニ果シテ如何リヤ仰冀クハ廟堂ノ有司一タビ意ヲ爰ニ止メ公法公理ニ基キ一定不朽ノ律ヲ定メ血氣少年

輩ヲシテ方向ニ惑フ無ラシメハ實ニ昭代ノ一美事ニシテ天下萬姓ノ幸福ト云フベシ爰ニ愚衷ヲ述フ識者幸ニ之ヲ裁セヨ云々
○本邦漆塗ノ彩色ニ於テハ其伎最モ巧ニシテ其數極テ多シト雖氏未タ紫漆ノ例アルヲ聞カス府下牛込山伏町ニ住セル粕川幹多年此事ニ苦心シ千慮万思シテ遂ニ之ヲ發明セリト是亦工業日進ノ一端ニシテ追々諸漆器ヲ製シ廣ク海外ヘ輸送フルニ至ルナルベシ
○東京ヨリ横濱迄ノ鐵道落成シ五月七日ヨリ瀧車運轉相始メ諸人ノ乘車ヲ差免サル、由乘車規則左ノ如シ

鐵道列車發時刻及貨金表

貨金		上		下	
上等	中等	午後四時	午前八時	午後五時	午前九時
同	同	四時三十分	八時三十分	五時三十分	九時三十分
斤道一圓五拾錢		同		同	
五拾錢		同		同	

小兒四歳迄ハ無貨十
二歳迄ハ半貨金小包
胴亂ノ類ハ無貨其餘
目方三十斤迄ハ二十
五錢三十斤以上六十
斤迄ハ五十錢尤一人
六十斤迄ニ限ル

○昨年故廣澤參議ヲ殺害ニ及ヒシ者ハ其家臣某ナル
ヨシ外國新聞ニ載タリ此說未タ確實ナラス尚詳細ニ
取調べ追テ後號ニ記スベシ

新開雜誌第四十三號 終

報告

○昨冬三崎文部少教授兼倉橋通東校御構内地所ヲ拝
借シ理化ニ學獨逸語學數學ノ塾ヲ開キシニ學課宜
ニ適ヒ教道整肅ナルカ故ニ有志ノ生徒諸方ヨリ笈
ヲ負ヒ輻湊セリ今夏更ニ塾舎ヲ建築シテ入學ノ請
ヲ受ントス其學課塾則左ノ如シ

毎週	月曜	火曜	水曜
午前六時半 至七時半	化学	理学	化学
自十時 至十二時	獨乙語学	同	同
午後二時 至三時	数学	同	同
自三時 至四時	化学記 聞輯録	同	同
自四時 至五時	獨乙文典	同	同
自六時 至七時	獨乙復文	同	同

木曜	理学	同	同	同	同
金曜	化学	同	同	同	同
土曜	理学	同	同	同	同

入舎料 金ニ圓ニ方 毎月受教料 日一圓ニ方

月俸 日ニ圓 七月十二月 日ニ圓宛可納

右學課其他醫家必要ノ書籍西洋ニ注文セシ者既ニ
 来著セリ塾中常用ノ外猶多ク有餘有之候間望ミ
 ノ者ハ當塾ニ来リ給ヘ西洋本價ニテ賣渡ス可シ

觀先塾社識

撰者伏テ四方ノ君子ニ告ケ奉ル本局既ニ 官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス
 其旨意ハ前ニ述ル所ノ如シ但奇事異聞耳目ノ及ハサル處多ク願クハ同人
 何事ニヨラス其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ビ下ニ列スル賣弘處ニ寄セ玉
 ハ次第ニ刊行發兌スベシ但寄玉フ書付ニ其住處姓名ヲ必ズ載セ玉フ
 可シ無名ノ書ハ敢テ采入セス無根ノ浮言造説アルヲ恐ルナリ

- 一切賣買ノ弘等望ニヨツテ出版スル事件
 - 一田地山林家屋舟車等賣買貸借
 - 一新發明巧器及書籍等賣買
 - 一產物器具食品藥劑等一切賣買
 - 一金銀其外ノ貸借等
 - 一諸船ノ入湊出帆積荷ノ物件等
 - 一失物尋物等
 - 一店ヒラキ新規賣出等ノ引札
 - 一觀セモノ集會等ノ引札
- 右等何レモ一行廿三字一度出板價三匁宛同事件二度分ハ五匁五分
 ニテ御引受イタシ候

新聞雜誌定價一號銀二匁 每週出版

當時發兌號ヨリ先キ二十冊分引受候向ハ定價ヨリ二割引
同四十冊分ハ三割引

右定ノ通約定前金受取候上ハ每號發兌順序ヲ逐ヒ本局ヨリ御届致
候又遠方取次賣弘方望ミノ人ハ本局へ御引合ノ上御相談可申候

本局

東京兩國若松町

新 堂

東京兩國横山町三丁目

和泉屋金右門

東京芝三島町

和泉屋市兵衛

大塚齋橋通

河内屋吉兵衛

西京東洞院三條上ル町

村上勘兵衛

東京日本橋通壹町目

須原屋茂兵衛

大塚齋橋通

河内屋喜兵衛

大塚心齋橋通五丁目

河内屋清七

東京日本橋釘店

和泉屋壯造

賣弘所